

レーダー探知機とOBDⅡモニターを一体化

マルチインフォメーター

車両診断コネクタ(OBDⅡ端子)に接続し、クルマの各種情報を表示できるマルチメーターでありながら、本格的なレーダー探知機能も持つ、1台2役のスグレモノだ。



BLITZ

Smart B.R.A.I.N.

価格：4万9800円



取り締まり警告も
車両情報もスマホに表示

最新STYLE

#2

CGOTY

方法論

チャート式用品選び

OBDⅡ端子からの情報をフルに活用する

車両の故障診断コネクタ(OBDⅡ)に接続し、各種車両情報を取得すると同時に、その情報をもとにレーダー探知機としての性能も確保。そしてスマートフォンにハイレベルなグラフィックで表示する。

スマホと接続して
あるいは単独で使える

クルマに装着する電子デバイスがスマートフォンと連動しつつある。特にインターフェースに関しては、スマートフォンのものを使えば高精細なモニターとタッチパネルを使えるので、都合がいいのだ。

しかしブリッツは、さらにユニークなハイブリッドを実現した。OBDⅡ端子からとる車両情報を表示するマルチメーターと、レーダー探知機を一体化したのだ。そして、それをスマートフォンと連動させた。それがこのスマートブレインだ。

最新のレーダー探知機は、電源をとったり自車位置精度を上げるために、OBDⅡ端子に接続するものも少なくない。そうすると、従来からあるOBDモニター専用機器が接続できなくなってしまうという問題があった。そこでブリッツは、レーダー探知機とOBDモニターを一体化したというわけだ。

スマートブレインは単独でも作動する。その場合は本体の小さいモニター画面に情報が表示されることになる。OBDからの情報は、車速、回転数、バッテリー電圧、スロットル開度など合計26項目のなかから1項目または2項目を選んで表示できる。また、取り締まりポイントに近づけば取り締まり警告情報も表示してくれる。

またレーダー探知機能に関しては、画像が用意されているスポットでは取り締まり機の実写画像まで表示しつつ警告してくれる。

OBDモニターとしては従来から定評があるブリッツならではの機能を持っているが、レーダー探知機としても上位クラスの機能を持ったスグレモノ。機能面での不満は感じないはずだ。

専用ステーが付属



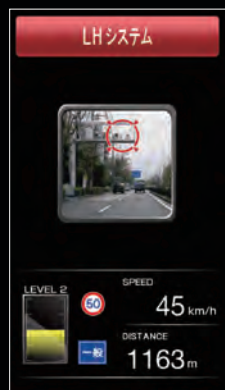
GPS信号を受信できる場所に設置する必要がある。また付属のステーは縦横ともに角度調整が可能なので、設置の自由度が高い。

接続は簡単



配線はクルマの故障診断コネクタ(OBDⅡ)端子にカプラーを接続するだけ。電源も基本的にはそこからとれるので、非常に簡単だ。

グラフィカルな表示が可能



スマートフォンなら、写真のニードルメーターのようにきれいなグラフィックスで車両情報を表示することができる。また、取り締まり情報はスポットによって実写画像の表示も可能。

本体の表示はミニマル



本体はELディスプレイを採用しているため、視認性は高いが、サイズが小さいため、ひとつまたはふたつの情報が表示できない。

設定もスマホ経由が簡単



本体だけで各種設定をするのは、やや煩雑な作業になるが、スマートフォン経由なら簡単。本体だけではできない内容の設定も可能だ。